競走馬として最高の能力を発揮するために
～騎乗4万回達成の桑島氏の講習会（BTC）～

軽種馬育成調教センター　技術普及課長　小林　光紀

はじめに

軽種馬育成調教センター（BTC）とBTC利用者振興会が初めて共催した本講習会は、BTCを利用する騎乗者等を対象に、本年6月7日、北海道浦河のBTC日高事業所・軽種馬診療所において実施されました。講師としては、南関東を代表する騎手の一人である桑島孝春氏（現：地方競馬全国協会参与）を招き、氏の豊富な経験から得られた、競走馬として最高の能力を発揮するために必要な育成調教技術や知識について、講話していただきました。講習会は、事前に参加希望者から収集した桑島氏への様々な技術的質問に、桑島氏が騎手からの視点で答える質疑応答形式で実施されましたので、その主な質疑の様子を報告いたします。

桑島孝春氏の略歴

浦河町出身、1955年生まれ。南関東公営競馬・船橋競馬場元ジョッキーで、1979年に16歳でデビューし、新人賞を獲得。1985年の第5回ジャパンカップ競走において、シンボリルドルフの2着となったロッキータイガー（写真1・2）などに騎乗し、帝王賞など重賞競走の優勝は86回に上ります。

2010年に55歳で引退されるまでに、地方競馬騎手として歴代最高の40,201回の騎乗回数を記録されました。その間に、南関東や全国のリーディングジョッキーを何回も獲得し、通算4,713勝の勝利数を収められています。

NARベストフェアプレイ賞を受賞するなど人望も厚く、多くの関係者から信頼され、千葉県騎手会会長を歴任、引退後は地方競馬全国協会参与を委託され、後進の指導にあたられておられます。

写真1
ロッキータイガーに騎乗する桑島騎手　（JRA提供）

写真2
第5回ジャパンカップ競走・ロッキータイガー2着に健闘
（JRA提供）

ジョッキーの仕事に関する質問

質問：騎手として新人だった頃に、何を重点に（何に一番気を付けて）騎乗していましたか?

桑島：右も左も分からず非常に不安でしたが、高松調教師から“勝ち負けにこだわるな”と言われたことがとても良かったです。“落ち着いてレースの流れに上手く乗ってこい”という意味と受け取り、指示通りに騎乗したことで、新人の時は上手く騎乗できました。難しかったこととして、癖のある馬やコントロールできない馬もいましたが、勝ち負けにこだわらず、何回でも挑戦することで克服し、あまり難しいことは考えないようにしました。

質問：長く現役の騎手を継続されることは体力的にも大変だったのではと思いますが、何か心がけていたことや、生活習慣などについて教えて下さい。

桑島：長く騎乗していると小さな怪我や風邪などいろいろあり

ますが、健康であまり怪我がなく、身体が小さく減量もきつくなく、身も心も常にハッピーな状態でいられたことが、長年騎乗できた秘訣だと思います。その中でも、減量にあまり困らなかったことが一番大きいと思います。レースのある時は、朝2時に起床して調教を行い、レース終了後は午後10時に帰宅です。とても忙しく、休日は体を休めることに専念しました。スポーツジムに通うことや身体のメンテナンスをすることはあまりしませんでしたが、毎日の騎乗がトレーニング（1日20鞍も騎乗）であり、騎乗前の柔軟運動やウォーミングアップは常に行っていました。

質問：上手く騎乗できなかった時、どのように気持ちを切り替えていましたか?

桑島：勝ち負けにこだわらず、開き直り、焦らず、その馬に上手く騎乗することだけを考えていました。そのため、あまり焦らず、眠れないことも少なく、1日のリズムを変えることなく、1日1日を精一杯働きました（騎乗していました）。

質問：非常に長い間現役の騎手をされておられ、周囲から調教師への転身も期待されたと思いますが、調教師の道は考えなかったのですか?

桑島：30～40歳では、いずれ調教師にと考えていましたが、50歳になったらこのままジョッキーで行けるところまで行こうと考えが変わり、結局55歳まで騎乗しました。最終的に、40年間で4万回騎乗という区切りもあり、また自分が南関東で最年長となっており、自分が引退しないと後輩も辞めづらいと思い（笑）、きっぱり引退しようと考え、電撃引退となりました。

質問：騎手になって良かったこと、悪かったことは何ですか?

桑島：良かったことは大観衆の中で勝つ喜びを味わえたこと、悪かったことは忙しすぎて趣味を持つことができなかったことです（筆者：桑島氏の趣味は馬だったと痛切に感じました）。

質問：調教で走る馬はわかるのでしょうか?

桑島：僕はわかりません、わからない方が良いと考えています。常に馬を信じてトレーニングを実施し、馬は毎日の積み重ねで強くなってきます。一生懸命世話をすれば、馬も故障しないで必ず世話してくれる人たちに答えてくれると信じています。

育成技術に関する質問

質問：育成者に特に重要視して欲しいことは何でしょうか?

桑島：馬の気持ちになり、愛馬心を持ち、やさしいことから一つずつ気長に教えてあげると、馬は必ず走るようになると信じてあげて欲しいものです。あまり無理すると故障の原因となるので、焦らず、気長にじっくり先を見据えて調教して下さい。馬をいたわる気持ちを持ち、一つ一つていねいに根気良く行って下さい。

質問：育成場でこういうことをもっと馴致しておいてくれたら良かったと思うことはありますか?

桑島：他の馬を怖がらないよう馬沿いを良くしてもらうと、ほとんどのことに対応できます。指示した時に闘争心を出せるのがベストですが、あまりテンションを高くしすぎないことも重要です。

質問：馬に負担にならない騎乗者になってもらいたいのですが、調教している若者に何かアドバイスがあればお願いします。

桑島：ジョッキーはしっかり馬に跨っていられるかどうかがポイントで、それによって扶助の使い方も上手くできるようになれます。下半身をしっかり強化し、馬の上に上手く跨れる（鞍はまりが良くなる）ようになれれば、馬に負担をかけないでトレーニングできると考えています。また、上手に乗れれば馬が怪我することは少ないと考えています。

質問：手前変換を上手く教えるコツはどうすれば良いのでしょうか?

桑島：大きな馬場では難しく、小さな馬場で左右手前を教えると、窮屈になって自分から手前変換するようになってきます。

質問：雄馬と雌馬の取扱いや騎乗で注意しなければならない点はどんなことでしょうか?

桑島：雌馬はデリケートかつ神経質なので、気を付けてむやみにムチで叩いたりしないで（悪くなると手に負えなくなる）、調教時はスピードに乗せて走らせ、テンションを上げないように心がけました。雄馬は気合をかけると気性が荒くなって、やんちゃになり、捻挫や外傷が多くなるので注意していました。性別ではそんなに神経質になる必要はありませんが、特に今時期（南関東の6月頃）は、蒸暑く体調を崩しやすいので注意が必要です。

質問：馬群を怖がる馬は逃げるしかないと聞きますが、育成段階で先行・追い込みなどの脚質はかなり決まってしまうものでしょうか?

桑島：全く関係ないと思います。最初は馬群を嫌う馬もだんだん馴れてきます。大人しい馬を周りに配置し、だんだん馴れると信じて長めに調教します。レースになるとほとんどの馬は大丈夫で、臆病な馬でも追い込み馬になります。逃げてバタバタした馬は、今度は後ろから行ってみます。1回目ダメでも、2回、3回と良くなります。道中、いかにロスなく走ってくるかがポイントで、逃げ馬が追い込み馬になることもあり得ます。いろいろなことに挑戦して試してみましたが、馬は次第に対応してくれます。

質問：テンションが上がりやすい馬はどのようなことに気を付けて騎乗すれば良いですか?

桑島：個々の性格を良く観察し、落ち着くような状況を作るようにしました。大人しい馬を周囲に配置するなど、なるべくテンションが上がらないような状況、例えば大人しい馬のそばで長く運動するよう心がけました。

質問：精神的に弱く、馬混みを嫌がる馬のトレーニング方法とゲートの悪い馬の直し方を教えて下さい?

桑島：これも大人しいパートナーを使用して、長めにトレーニングさせます。最初は後ろから付いていくのが良いでしょう。無理しないで、ゆっくりと馬が馴れてくるのを我慢して待ちます。

その他の質問

質問：これからの女性ホースマンはどうあるべきとお考えになりますか?

桑島：女性は細かいことによく気が付くので、馬にはとても良いと思います。仕事の上では女性も男性も関係ないと思います。

質問：桑島さんの愛馬心や馬への忍耐力はいつごろから芽生えてきたのですか?

桑島：20歳前後は若さでがむしゃらに騎乗していましたが、20歳前半にある乗馬関係者と話していて、きつく教え込もうとしていじめたりしても逆に覚えなくてダメだと聞かされました。それから、馬に対してあまりきつくあたらず、我慢して馴らしていくようになりました。例えば、ムチで叩いても走るとは限らないし、ムチをきっちり使って直線で追っても速く走っていないことが数回ありました。ということは、ムチはそんなに使う必要はないし、馬はムチで走るものでもないと思います。その前に馬が走れる状態にあるかどうかを良く考えるようになりました。必要に応じムチは使いますが、全く使わないこともあるし、その時は騎坐で押し出すようにしています。

質問：桑島さんがもしもBTCを利用していたら、どんなトレーニングをしてみたいですか?

桑島：船橋はフラットの1400mのみの馬場なので、BTCであればゆったりとインターバルトレーニングをしてみたいです。船橋は基本的に分業制で、厩務員がウォーミングアップ（引き運動30～40分）した後、自分が騎乗し、速歩1500m、キャンター3000mをおよそ15分間で調教していますので、BTCであれば1頭に2時間ぐらいかけて、常歩・速歩・駈歩を取り混ぜながらじっくり調教してみたいです。

終わりに

騎手生活40年間、4万回の騎乗を達成された桑島氏の講習は、すべて長年の経験によって得られた貴重なものでした。講習では、常に愛馬心を持ち、馬の気持ちになり、焦らず、気長に一つ一つじっくりと馬にあわせて行う桑島氏の馬に対する考えが、講話の随所ににじみ出ており、ホースマンのあり方について基本に立ち戻り、無理せず何事も馬を信じて気長に待つことの大切さを再認識する良い機会となりました。

BTC利用者振興会と軽種馬育成調教センターが共催して実施する初めての講習会は、約80名の参加者があり、活発な質問があり非常に盛会でした。最後に、主催者として、講習会に参加した若い騎乗者には大変有意義な内容で、講師の桑島氏には、この場を借りましてお礼申し上げます。

写真３　講習を行う桑島氏

写真４　講習会の様子
多くの参加者（ほとんどが若い騎乗者）が聴講しました。